

日ごろは言えない言葉

絶対に後悔したくない人が始めるべきこと

元消防学校教官の鎌田修広さん（株式会社タフ・ジャパン代表）は、東日本大震災以降、毎年訪問を続いている地域の消防団関係者とのかかわりの中で、忘れられない瞬間があるといいます。

それは消防団のメンバーが、家族連れて集った席のこと。家族に向けた「日ごろは言えない感謝の言葉」を一人ずつ伝え合った際、ある団員の奥様が次のような思いを語ったというのです。

「震災後は毎日、「今、命があること」に感謝して、精いっぱい生きています。たとえ夫とけんかをした翌日であっても、絶対に後悔しないよう、ちゃんと朝早く起きてお化粧を済ませ、毎日満面の笑顔で『気をつけて行ってらっしゃい』と見送るようになりました。私たちはこんなことぐらいしかできないけれど、世の中、何が起こるか分からない。もうこれ以上、後悔だけはしたくないのよ」

「ここで生きていく覚悟を涙ぐみながら語られたその言葉に、鎌田さんは「家族愛や隣人愛、郷土愛を“見える化”するため、利他的なエネルギーを發揮して具体的な行動を起こしていくことこそ、防災の本質。その意味でも『防災』と『道徳教育』はセットでなければならない」と確信したそうです。（参考＝鎌田修広著『愛と絆で命をつなぐ「防災道徳教育」モラロジー研究所刊）

鎌田さんは言います。

「最後の言葉や最後の姿は、ずっと記憶に残り、生き続けます。私たちに今すぐできることは、まず大切な人に対する感謝の気持ちを、心を込め、言葉として伝えていくことではないでしょうか」と。

時には「今日の一日」を、ゆつたりとした気持ちで家族の姿を振り返ってみませんか。